

公開シンポジウムⅡ 「子どもの貧困」と教育学研究の課題

わが国において「子どもの貧困」が注目を浴びるようになったのは、2006年のOECD報告以来であろう。先進諸国の中でも我が国の子どもの貧困率が高位であるというショッキングな報道がなされたことは記憶に新しい。これに対し、政府も2013年に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」を制定し、それに基づき、平成2014年には、「子どもの貧困対策に関する大綱」を定めた。また、学校現場や地域社会、行政レベルにおいても、連携して、子どもの貧困への様々な対策が広がりを見せている。他方、教育行政学、教育社会学、社会学、経済学、児童福祉学、臨床心理学等様々な研究分野においても、子どもの貧困研究が活発化している。

そこで、本学会が、教育学研究者による最も大きな学会であることに鑑み、本シンポジウムにおいては、子どもの貧困に関して、教育学研究者は、この問題にどのように取り組み、何を課題としているのか、また、今後どのような研究の可能性を持っているのかを明らかにしたい。様々な研究分野から行われている「子どもの貧困研究」の知見を通して、多様な側面を持つ「子どもの貧困」の実態と課題、そして、教育学研究の可能性について話し合いたいと思う。

シンポジウムの構成としては、まず初めに、大会開催地である仙台市の前教育長(現東北大学大学院法学研究科教授)の荒井崇氏から、仙台市における子どもの貧困への取り組みについて報告して頂く。その後、教育法・教育政策研究の立場から神戸大学の渡部昭男氏に、教育社会学の立場から上智大学の酒井朗氏に、そして、教育経営学の立場から日本大学の末富芳氏に報告を頂く予定である。

シンポジスト

1 仙台市における子どもの貧困への取り組みと課題

荒井 崇(東北大学大学院法学研究科教授、前仙台市教育長)

2 教育法・教育政策研究の立場から

渡部 昭男(神戸大学教授)

3 教育社会学の立場から

酒井 朗(上智大学教授)

4 教育経営学の立場から

末富 芳(日本大学教授)

司 会

牛渡 淳(仙台白百合女子大学) 佐藤 修司(秋田大学)